

第4日

令和3年9月3日（金）

午後3時10分再開

○議長（半田雄三君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、2番徳永秀俊議員の質問を許可します。2番徳永秀俊議員。

（2番徳永秀俊君登壇）

○2番（徳永秀俊君） 皆さん、こんにちは。今日最後の一般質問をさせていただきます  
公明党の徳永秀俊でございます。どうぞよろしくお願い致します。

今回の大雨で、また大きな災害が起きないかと大変に心配をしておりましたけれども、  
長期的な大雨が原因で数か所土砂崩れなどが発生しておりましたが、幸いにも人災に至る  
ような大きな災害ではなく、市内の去年またおとしの浸水した地域を、大雨当日私は自  
分の四駆の軽トラで朝、昼、夕方と見てまいりましたが、復旧復興の工事のおかげだと思  
いますけれども内水氾濫も起きにくくなっており、懸命に努力していただいている市長を  
はじめ行政の皆さん、そして市民の皆さんのおかげであると実感し、感謝いた次第でござ  
いました。

さて、今回は、私は2つの質問をさせていただきます。

1つ目は、防災減災につきまして、避難時の独居老人などの自力では避難が難しい方  
に対する対応につきまして、避難場所の情報対応について、防災行政無線につきまして。

そして、2点目は、地方創生につきまして、国税調査2020速報値について、近隣自治体  
の取組と本市の取組について、企業誘致について、空き家対策について、定住促進につ  
いてでございます。

これから先は、質問席に戻りまして質問を続行させていただきたいと思います。執行部  
の皆様よろしくお願ひいたします。

（2番徳永秀俊君降壇）

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） 初めに、防災減災につきまして質問をさせていただきます。

避難時の独居老人などの、自力で避難が難しい方に対する対応につきまして質問させて  
いただきます。

今回の大雨で、警戒レベル5が発令され、約80名の方が避難所に避難されておりました。  
昼夜対応に当たっていただいている職員の皆さんには、感謝でいっぱいでございます。本  
当にありがとうございます。ピーポートの会場に着きましたら、間隔をしっかり保ってあ  
りまして、適切な対応がなされてあると感じました。

避難されてある方に失礼にならないように、御挨拶かたがたお話をお聞きいたしました。  
その中で、一人住まいの高齢の女性の方から3人ほどお話を伺いました。そのお話の中で  
異口同音におっしゃるには、災害時一人住まいでとても心配です。早目早目に避難の準備

をしているが、年なもんだからすごく時間がかかるし、手ぶらで避難所に行くわけにもいかないし、それ相応の水筒や食料、衣類、簡単な毛布類など準備しなければいけない。それから、どこの場所が開設されているか分からないので、知り合いに調べていただいて確認をして、タクシー呼んで来てもらって出てきましたと。ほとんど同じような内容でお答えになっていただきました。

お話を聞いておまして、本当に大変な思いでこの避難所に来てあるんだなとこのように思いました。

災害が起きたとき、一番に犠牲になる可能性が高いのはこの災害弱者の方々だと思われます。独居老人の方々をはじめ、自力で避難が難しい方への避難支援について、市のほうはどのように考えてあるんでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 市では、75歳以上の高齢者のみ世帯の方や、身体障害者の手帳1級2級の交付を受けてある方などに、自力での避難が困難と思われる方を対象に、本人の同意を得まして避難行動要支援名簿を作成しております。その名簿を、各地域の自主防災会や民生児童委員等へお配りし、自力での避難が困難な方の支援をお願いしているところです。

地域によっては、避難行動要支援者一人一人に対する支援者を決めまして、避難を支援しているところもありますが、まだまだ全体には浸透していない状況であります。

市としましては、なお一層出前講座や防災講演会、広報紙などで地域での支援の重要性を啓発するとともに、地域や福祉団体と連携しまして避難行動要支援者ごとに避難支援を行う人や、避難先の情報を記載した個別避難計画の作成を推進していきたいと考えております。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。こういった災害弱者の方は今後減ることはないと思うんですよ、ますます増えてくるんじゃないかなと思うんですが、これ先ほどのお話の中では、いわゆるコミュニティの中のほうにそのリストがあって、それでそちらのほうに任せてますよと。いわゆる自助、共助、公助の中の共助だと思うんですけれども、これが本当になされてるかどうかのチェック体制はどのようにされておりますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 防災交通課長。

○防災交通課長（浦塚武実君） チェックということまでは今のところしておりません。年に一度、各コミュニティのほうにそういった自力で避難ができない、難しい方に対して支援者を決めてますかというふうな調査まででとどまっております。

やはり、今後地域の防災力の向上というのがどうしても必要不可欠だというふうに思っております。そういうことから、私ども行政といたしましてはそういった地域の自主防災

会に強く働きかけをするとともに、いろんな情報とかアドバイスを加えながら、一緒にそういう自立が困難な方々の支援について考えていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。私もこう思ったんですよね、私はどっか遠隔地で働いておまして一人母親を残してましたら、すごく心配になると思うんですよ。

何ていいですかね、お母さんとかをちゃんとどうやって避難するかというのがやっぱり心配になると思うんですね。そういった思いというのはもちろん自助とか共助でしょうけれども、やっぱり公助の部分でもしっかりそういう温かい思い、そういった思いでくんでいただければいいんじゃないかなと思います。今後ともPDCAチェックしながら、前に進めていっていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

そしたら、次の質問に移らせていただきます。

次は、続きまして避難所での災害に対する情報の報道につきまして、こちらも実際に避難してこられた方からの御意見を伺ったんですけれども、これはピーポートですね、3階にはテレビが畳の部屋に置いていただいているんですよ。やっぱり大きいテレビで、情報もしっかりどういう状況だというのがすごく分かりやすいんですよ。2階には残念ながら置いてありませんでした。

これは、例えば移動式でもいいですしそのときだけでもいいんですけれども、そういった情報の媒体といいますかね、そんなときだけでもいいんで廊下等に、場所では例えばエレベーターのある横に置けば、歩きながらでも立ちながらでも見れますので、そのような対応ができないかそのように思っておりますが、この点はいかがでしょう。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） テレビの設置でございますけれども、開設実績の多い指定避難所のほうにはそれぞれテレビを設置しております。

ピーポート甘木には、御存じのとおり3階のほうの和室に設置をしております。災害気象情報につきましては、個人の所有するラジオやスマホでも入手できる可能性がありますので、新たにテレビを設置する考えはないことを御理解いただきたいと思っております。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） しかしながら、それもよく分かります。やはり一番災害弱者、一番その情報が分かりたいという方、最大公約数で伝えようとそういうことでいけば、近い将来お願いをしたいなと思っておりますのでよろしく願いします。

続きまして、防災行政無線につきまして、これもピーポートに避難してこられた複数の方からの御意見をお伺いいたしました。

防災行政無線のよいところは、市長の声で市民の皆さんに緊急事態を発声してある点で

す。市長がしっかりと市民の皆さんを守っていますよとのメッセージが伝わり、大変よいことだと思っております。

しかし、不満の声も聞こえます。柴山議員もおっしゃってありましたが、防災行政無線は聞き取りにくいのため、もっと聞こえるように工夫はできませんかとのことです。特に風の強いときや雨のとき、室内から聞こえづらく、窓を開けることもできないから聞き取りにくいとのことです。私も同じように感じる時がありますので、この点はいかがお考えでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 防災行政無線は、音声による情報伝達であります。障害物や交通騒音等の条件により聞こえづらい場所や風雨の強いときには聞こえない場所があります。

市では、防災行政無線を補完する情報伝達手段としまして、無線放送の内容を携帯電話へ文字情報として配信する緊急速報メールや防災メール・まもるくん、テレビのデータ放送に配信するLアラート、無線放送の内容を電話で確認することができます防災行政無線テレホンサービスを実施していますので、これらの手段を活用していただきたいと考えておるところでございます。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） 市長が、直接市民の皆さんに訴えられる、あのことはとても僕はいいことだと思っております。そのことが、窓を開けないと聞こえないとか雨の日は開けられない、そういったことで室内に同じような市長の声で流れるようなシステムをつくればいいんじゃないかなと思っておりますが、そういったシステムは今現在朝倉市にはございますか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 各家庭のほうに直接音声を流すシステムはございません。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） 市民の方から聞いた、杷木のほうの方と思うんですが、一般家庭に有線放送みたいななんがあつて市長の声が流れてきますよということを言われたことありましたが、そういうことはないのでしょうか。

○議長（半田雄三君） 防災交通課長。

○防災交通課長（浦塚武実君） 杷木のほうでは地域無線がありますし、有線放送があるところにつきましてもそういった地域の無線であったり有線放送であったり、そういったものを防災行政無線と接続しまして聞こえるようには現在なっております。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） 私は、やっぱり防災に強い都市づくりという観点で、それを朝倉市全体になるべく希望の方はつけられるように市のほうで促進したほうがいいんじゃない

かなと思っておりますが、その点はいかがでしょうか。

○議長（半田雄三君） 防災交通課長。

○防災交通課長（浦塚武実君） 今現在、部長のほうも申し上げましたとおり、テレビをつければデジタル放送の中で、朝倉市のほうで避難情報が発表されましたとかというのが表示されるようになっております。

また、NHK以外の民放、例えばRKBであったりKBC似たようなシステムをもうテレビでも既にやっております。同じ情報ていうのは基本テレビからも見れます。それと、あと携帯電話からも先ほど申しましたとおりとることができます。まずはそういったものを御利用いただきたいというのが基本的な考えでございます。

ただ、今後どんどん技術も進歩していきますし、今議員おっしゃられますようにいろんな課題も出てきておりますので、今後の技術進歩と併せまして、そういった新たにどういうふうな方策で情報の多重化を図っていったほうがいいのかということについては、十分研究なり調査をしていきたいというふうに考えております。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。私は、先ほど災害弱者の方ということで一番最初話させていただいたんですが、そういった本当になかなか伝わりにくい方ですね要はね。そういった方に、最大伝わるような方法ということで考えていきながらやったほうがいいんじゃないかなと思います。

例えば、SNSに弱い方、テレビをつければと言っても、それ分かる方もいらっしゃいますけど、一番やっぱ分かるのは市長の声がこうですということを時々言っていただいたほうが、もっと親近感もあって市民の皆さんも安心するんじゃないかなと思うんですよ。

ですから、各家庭に、全員とは言いませんけれども御希望があれば、例えば有線放送ちゅうのは年間4,300円かかりますということを知ったことがあります。例えばですよ、1,000円とか1,500円とか市のほうが補助しますからつけませんかとか、そういうようなお話というのは近い将来できませんでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 情報伝達の方法につきましては、技術のほうの進歩でいろいろ出てきておりますので、今後そのような状況が出てきますれば研究していくことになると思います。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） ありがとうございます。あくまでも一番弱い方、その方に本当に伝わる、そういったのをお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

続きまして、地方創生につきまして質問をさせていただきます。

2020年の国勢調査速報値によりますと、朝倉市は5年前の5万2,442人に対しまして、令和2年は5万342人との速報値が出ております。約2,100人の方が何らかの理由によって

減少をしている勘定になります。

筑前町、そして筑紫野市、太宰府市、大野城市、春日市、那珂川市の福岡都市圏の中で、唯一人口減少を来している市が朝倉市でございます。恐らく福岡市に近い地の利が大きく関与しているとは思いますが、一方社人研が出している推測地よりも減少幅は小さく、比較的緩やかな減少であると思いました。

過去10年を振り返っても、2005年から2010年が3,030人の減少、2010年から2015年が3,911人の減少に対しまして、2015年から2020年は2,100人の減少でございました。急に減少人口が少なくなっておりますので、何か施策が功を奏したとかそういうのがあるんじゃないかなと思いますが、速報値ですので判断はしにくいと思いますが、概略どのように判断されておりますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 6月25日に総務省が発表しました2020年の国勢調査速報値では、外国人を含む日本人の人口は0.7%の減少、1億2,622万6,568人でした。都道府県で見ますと、38道府県が減少、9都府県で増加となっており、東京圏一極集中が進んでおります。また、愛知県、福岡県、大阪府などの都市圏でも人口増加しております。

福岡県におきましては、北九州市が全国の市町村で最も人口減少しましたが、福岡市は全国で2番目に増加しています。福岡市のみでなく、福岡市近郊の4つの圏域が増となり、福岡県全体では0.7%増加しております。

某新聞には、朝倉圏域のみが唯一減少し、最も人口が減ったのは朝倉市という記述がありました。これは福岡県には15圏域があり、うち福岡県都市圏6都市圏の中でのことでございます。その他の9圏域では全て減少しております。

また、全国1719市町村のうち人口が減少したのは1,416市町村で、全体の82.4%を占めております。特に5%以上の人口が減少した市町村は50.9%と、半数を超えております。

速報値におけます朝倉市の人口は5万344人と、前回から2,102人減少しており、4.01%の減少率となっております。まだ確定値ではなく、変動の可能性がある速報値であり、また男女別人口、世帯数のみの公表でありまして、詳細な分析ができていない状況であります。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。内容が分かりましたら、また教えていただきたいと思っております。

次の質問に移ります。

近隣自治体も同様に、地方創生には力を入れていると思いますが、人口減少問題に対しては福岡市などを中心にして、遠くなればなるほど地の利的には不利になると思われるため、もしも同等の結果を、例えば筑前町と同じような結果を求めるといえば、距離が離れている分朝倉市のほうが特段の施策が何か必要になるろうかと思っておりますが、こういった

点はどのようにお考えでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 議員言われましたように、福岡市近郊に人口増加の傾向があると思われます。現在市では、令和3年3月に改定した人口ビジョンの展望を実現するために、令和2年度から令和6年度までの5年間を対象とする第2期朝倉市総合戦略を策定しております。

この中で4つの基本目標を定め、基本目標2に、朝倉市への人の流れをつくるを掲げており、関係人口の創出、拡大や移住定着の促進などの施策を展開しているところでございます。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） ありがとうございます。そうですね、分かりました。

そしたら、次の質問なんですけど、生産年齢人口を増やそうと考えておられますでしょうか。これは、特に年代別に減っているのが生産年齢人口と呼ばれている15歳から65歳未満の人口でございまして、2020年の年齢別人口の詳細は資料がちょっとありませんでしたので分かりませんが、2010年と2015年の比較になります。全体で3,911人、7%の減少に対して、生産年齢人口は4,515人、13.5%の激減でございました。生産年齢人口を少しでも維持する努力が必要だと思いますが、こういった施策を考えておられますか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 2020年の国勢調査の速報値では、議員言われましたように年齢別等の詳細は現時点では公表されておりません。分析推移は説明できませんが、今後国の公表に伴い分析していくところでおります。

現在策定している第2期朝倉市総合戦略の中に、生産年齢人口を維持するための具体的な記述はありませんが、全人口の半分以上を生産年齢人口が占めるため、この年齢層を対象とした人口減に歯止めをかけるための様々な事業を展開しているところでございます。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） 様々なというのが、ちょっと具体的に2つぐらいでいいんでお願いします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 具体的に言いますと、移住定住支援金事業とあと子育て世代定住促進事業などがあります。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） 恐らく近隣の市町村も同じような施策を打っているのではないかと思いますので、向こうが100ならば同じ100であればプラスマイナスゼロで、効果的には上がらないのかもしれないなと思いましたが、これは予測でございまして。

そしたら次の質問なんですけど、本市は3つのインターがございまして。この地の利を生か

した企業誘致というものはお考えになっていませんか。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） 地の利を生かした企業誘致についてですが、企業からの問合せ等があった場合については、当然朝倉市には3つのインターチェンジがありますということはお伝えをしております。なお、市内であれば、平野部からであればおおむね15分以内にインターチェンジにアクセス可能といったPRは、併せて積極的に行っております。

候補地については、業種の違い等でアピールをすべきポイントは違ってきますが、3つのインターチェンジなど朝倉市ならではのPRポイントについては、今後も積極的にアピールをしながら企業誘致に取り組んでいきたいと考えております。以上です。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） 3つのインターチェンジがある市はあまりございませんので、本当にもったいないなといいますか、そういったところを積極的に活用するPRをして企業誘致を図っていき、地元働く人、生産年齢人口に該当する方々が外に、前回は13.5%減っているということですから、それを少しでも食い止めるためにはやはり企業がこちらに来ていただく、働く場所がたくさんないといけませんので、そういった観点から積極的に企業誘致をお願いをしたいと思っております。

続きまして、空き家対策につきまして質問でございます。

これは、全国に平成30年現在で846万戸の空き家がございます、総務省はこのように言っております。本市でも約3,200戸の空き家があると、このように言われております。放置された空き家は様々なトラブルの原因になり得るため、早急な対応が必要だと誰しもが思うところであります。

本市におきましては、以前質問をしました利活用の回答として、空き家バンクに登録を行い、流通に乗せて活用を図っている旨回答をいただいておりますが、件数にいたしますと3,200件中90件ほどであったと認識をしておりますが、この現状はどうでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 空き家問題については、本市に限らず全国的な問題であります。高齢化とともに増加傾向にあります。

朝倉市の空き家の状況としましては、総務省が行う住宅土地統計調査では平成20年で2,960戸、平成25年で2,890戸、平成30年度で3,200戸という統計上での推計値が公表されております。本市では、平成28年7月から空き家バンク制度を開設し、空き家の利活用を図っております。これまでの実績は、平成3年7月末で物件登録申請数が117件、契約成立件数が37件となっております。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） すいません。ちょっと数字が間違いました。ありがとうございます

す。

令和3年度の空き家利活用に対する予算は11万6,000円であったと認識していますが、この点は間違いございませんでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 今年度の予算額については間違いございません。主に空き家バンク相談会にかかる経費となっております。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） 11万6,000円が年間の予算だとしますと、月割にしますと約1万円ということですので、予算をもう少しアップして、例えば空き家の利活用を推進しているほかの自治体の取組や、空き家利活用を得意とする民間団体を調査したり、朝倉市とマッチングできないかそういった民間団体がですね、そういった研究に力を入れるべきではないかなと思っておりますが、この点はいかがですか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 市のほうでは、今年度から市民や地域、関係団体と連携しながら移住定住促進や地域活力を維持強化する取組を拡大するために、市と県から地域おこし協力隊を任用しております。

現在は、新型コロナの関係でなかなか活動が難しい状況ですけれども、各団体や先進自治体における空き家の利活用に関する情報を収集しまして、研究を行いながら新たな視点で空き家バンク運営の充実や移住希望者への相談対応、相談会開催の準備を進めているところでございます。

また、福岡県におきまして、令和2年度に県内各市町村や宅建協会、不動産協会、住宅リフォーム事業協会のほか、空き家に関わる各種専門家と連携しまして、空き家の最適な活用や処分の方法を検討し問題の解決を目指すため、福岡県空き家活用サポートセンター、家活が確立されました。

より専門的な知識が必要な場合や、複雑な手続きが必要な場合等にはこのセンターを案内するなど、福岡県とも連携しながら相談内容に合った方法で解決するよう努めておるところでございます。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） ありがとうございます。前向きによろしく願いたいと思います。

続きまして、空き家、空き地の放置でとても困るのはその周りに住む市民の皆さんでございます。

例えば、長年懸案だった複数名義の空き家を、持ち主の1人がお金を出して解体をしていただきました。一件落ち着いたとそのように思いましたが、今度はそこに雑草が生い茂るようになったと。市民の方が、持ち主が当方では分からないため市のほうに草刈りをして

ほしいとそのようにお願いをしたそうではありますが、市のほうでも対処できなかったそう  
であります。今後、こういった問題が減ることはないと思います。増えるんじゃないかな  
と思っておりませんが、市のほうの対応はいかがでしょうか。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 空き家等の管理につきましては、所有者、管理者が責任  
を持つという、これ管理注意義務と言われるものでございますけども、これが第一義的で  
ございまして、自らの意思による改善を基本としております。

しかし、議員申されますように、適切に管理されていない空き家等については、朝倉市  
空き家等の適切な管理に関する条例及び空き家対策の推進に関する特別措置法によりまし  
て、空き家等の状態とか所有者等を調査して、適切な管理や必要な措置を講じるように所  
所有者等に指導をしております。

御質問の空き家解体後の建築物のない土地については、空き家等とは見なされません。  
よって、地域の環境美化を図り快適な生活環境を保全するという観点から、環境課が所掌  
します朝倉市環境美化推進条例によりまして、土地所有者を調査し、適切な管理を行うよ  
う必要な指導を行っているといったところでございます。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） ありがとうございます。持ち主が分かって、そのように解決の方  
向へ行く土地とかはもう本当に心配ないんですね。ただ、そうならないところも多々出  
てくるんじゃないかなと思いますので今後の課題かと思いますが、やっぱり市民の皆さんは  
そういった難しいといえますか、その辺はきれいにしてほしいと思ってあるわけですから  
ね。それは、やっぱりなるべくそのようにしてあげるように努力すべきだと思います。

また、まちの美観にも関わってきますので、一步ずつでも結構ですからよろしくお願  
いしたいと思います。

続きまして、定住促進につきまして質問をさせていただきます。

現在、リフォーム補助金として、基本的に3世代の方が市内にお住いの方が対象になっ  
ておりますが、夫婦プラス子供の2世帯でお住いの方にもそのリフォーム補助金の対象を  
加えたらどうかと私は思いますけれども、この点いかがでしょうか。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 朝倉市リフォーム補助金でございますけれども、これは  
市民が快適に住み続けられる住環境の向上、それから地域経済の活性化及び定住促進を目  
指し、市内業者に発注して行う住宅リフォームに要する経費に対して補助をするものでご  
ざいます。

この補助制度は、朝倉市が目指します親と子と孫と一緒に暮らせるふるさとづくり、こ  
れを推進するため補助対象者の見直しにより、市内居住者については3世代世帯に限るこ  
ととしております。

今後、当該事業の成果を評価しまして、いただいた御意見を参考により一層定住促進に結びつくような施策というふうにしていきたいというふうに考えております。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。前向きにお願いいたします。

それから、市内にお住まいの方で結婚して住んでありまして、就職とか子供の小学校入学を機に家を建てたいと、建てようという方は多いと思います。こうした機会に、ほかの仮に自治体に移住する方もいると思いますが、そうではなくて本市に、この朝倉市に家を建てたら何らかのメリットが生まれ、どうせ建てるなら朝倉市内に建てようと考えたくなるような施策が必要かと思っております。

これは本市にとっても、例えば家を1回建てれば20年ないし30年はそこに一家が住み続けるわけですから、とても大きな力になるかと思えます。こういう施策はどうか、何かございませんでしょうか。

○議長（半田雄三君） 都市建設部長。

○都市建設部長（山南哲也君） 現在、地域経済の活性化及び定住促進を目指し、活力あるまちづくりの推進を図るために市内業者に発注して行う住宅の新築、それから建売住宅の購入に要する経費に対しまして補助します朝倉市住宅補助といったものを行っておりますけれども、これは市外からの市内居住予定者を対象としております。

市内在住者の過去3年間の新築件数、これは平均して約130件という状況でありまして、市内在住者を当該補助の対象とすることについては慎重に議論するべきであるというふうに考えております。

しかし、朝倉市の定住促進を図る上で、市内在住者が市外へ移り住むことなくそのまま市内に定住するための施策は、市外からの移住促進と同様に非常に重要なものであるというふうに考えております。

これも、今回いただいた貴重な御意見を今後の定住促進施策の参考とさせていただきます。以上です。

○議長（半田雄三君） 2番徳永議員。

○2番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。例えば、東京とか大阪から朝倉市に住む方は100万円というふうに伺っておりますので、そこまでなくてもこの朝倉市に住んで家を建てて子どもと一緒に住んでいこうという方に対しては、やはり何らかの形で支援をしてあげるべきではないかなと思っておりますので、前向きによろしく申し上げます。

以上で私の質問終わります。ありがとうございました。

○議長（半田雄三君） 2番徳永秀俊議員の質問は終わりました。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は、6日午前10時から行い、一般質問を続行いたします。

本日は、これにて散会いたします。

午後 3 時52分散会